

The39th

Passenger Cars & Motorcycles

TOKYO MOTOR SHOW 2005



News

vol.

1

平成17年10月20日

第39回東京モーターショー2005

乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

第39回東京モーターショー報道公開 “新半世紀”くるまのすべてに新提案

日本自動車工業会主催、第39回東京モーターショー（乗用車・二輪車）は10月21日から11月6日までの17日間、千葉県・幕張メッセで開催。

22日からの一般公開に先立って19・20日の両日、報道関係者に公開された。1954年、日比谷公園で産声をあげた東京モーターショーは50年の歴史を重ね、今回は新たな半世紀に向けた第一歩となる。これを記念して会場では特別イベントのほか“参加・体験型”のコンセプトに基づいた様々な企画を実施、女性や家族連れなど幅広い来場者が楽しめるショーとなっている。



ショーテーマは「“Driving Tomorrow!” from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。」—その理念は東京モーターショーは世界で一番進んだ技術やデザインに触れられる場、祭典でありたい。また、くるまは自然・地球環境にどこまでやさしくなるか、など「くるまとくるま社会」の最新情報を発信する場でありたい、という思いが込められている。「ロゴマーク」は筆で勢いよく描いた「一」の文字で、疾走するくるまを描いたビジュアルなものとしている。「一」は世界のモーターショーの頂点を表し、またすべての新しいムーブメントが東京モーターショーから始まるという「一」でもある。くるまを墨で描いた「書」にすることにより、東京モーター

ショーの開催地である日本とその伝統を象徴化している。くるまの疾走する姿は“Driving Tomorrow!”を表現している。

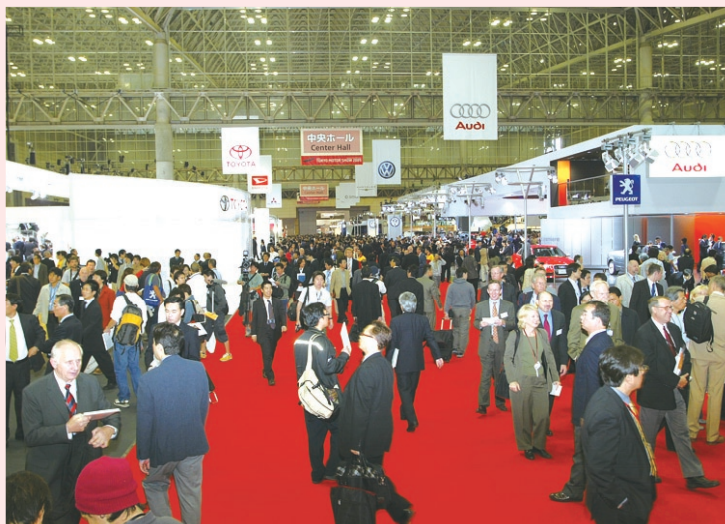
また今回は来場者サービスとして会場の混雑緩和のため週末を3回組み入れ、従来より会期を4日延長の17日間と世界最長とした。さらに車いす利用者特別見学日をプレスデー2日目の10月20日午後に設け、ゆったりと見学できるようにしたほか、プライオリティシートも600席と大幅に増やした。入場料は中学・高校生を半額、小学生以下を無料。乳・幼児サービスセンターを設けるなど幅広い層への徹底したサービスが特徴となっている。



出品各社と展示構成(乗用車・二輪車・部品) 多彩なモデルが勢揃い

“くるまのすべてに新提案”をキーワードに各ホールには日本の技術が誇る地球環境対応型、人(安全・福祉)にやさしいクルマたち。世界初披露(WP)日本初披露(JP)の世界トップレベルの多彩なプレミアム・モデル199台が勢揃い。さらにはアイデア車や若者に人気のカロツェリア展示、50周年記念の懐かしいクルマなど新たな半世紀にふさわしいショー風景となっている。

中央ホール(乗用車・部品)



トヨタ(レクサス並行展示)、ダイハツ、三菱の日本メーカー。海外のプジョー、アウディ、ベントレー、プガッティ、ランボルギーニ、フォルクスワーゲン、ダイムラー・クライスラーのクライスラーとメルセデス・ベンツ、スマート、AMG。部品はオーディオ・ナビゲーション。

参加国・企業数は日本を含む13カ国・1地域から239社・5政府(カナダ、ドイツ、スウェーデン、アメリカ、初参加のマレーシア)・1団体。会場規模は幕張メッセ国際展示場の西・中央・東・北ホール及びイベントホールを使用し、展示面積は前回の乗用車・二輪車ショー(第37回)並の4万平方メートル強。出品者の内訳は乗用車メーカー38社(国内9社・海外29社)。二輪車12社(国内4社・海外8社)。部品関係181社・5政府・1団体(国内159社・1団体、海外22社・5政府)。カロツェリア8社。

一方、来場者にやさしい情報もある。今回は会期を延長し混雑緩和に重点が置かれ、展示場の天井照明も新設されるなど、会場全体が明るい雰囲気となった。このためゆっくりと、見やすくなった会場構成が特徴だ。ホール別各社ブースは次のとおり。

家族など誰もが楽しめる

参加・体験型のイベントが目白押し

“参加・体験型”ショーにふさわしく、来場者の誰もが楽しみながら学べる多彩なイベントが会場の各所で催される。環境へのやさしさを実感できるクリーンエネルギー車の同乗試乗会、少年少女のバイク体験、家族が楽しめるフェスティバルパークでの数々のイベント、クルマ社会の様々な情報を提供するシンポジウムなど。東京モーターショーだからこそ参加・体験できる企画が目白押しだ。

50周年記念イベント

50周年記念 特別展示プレスプレビューin日比谷公園に参加した車両を含む四輪車19台、二輪車8台が「50年を振り返る特別展示」としてイベントホールに出品されている。



シンポジウム2005

専門家から一般向けまでくるまをめぐる社会的関心の高い7つのテーマをとりあげる。会場は国際会議場2階国際会議室。テーマは「目からウロコ! エコドライブってとっても簡単・発見・驚き」(10月29日、主催:環境省等)。「広がる福祉車両の可能性」(同30日、主催:日本自動車工業会)。「持続可能なモビリティへの一歩」(同31日、主催:日本自動車研究所等)。「カロツェリアの世界」(11月1日、主催:日本自動車工業会)。「第6回 自動車安全シンポジウム」(同2日、主催:国土交通省)。「クイズでがってん! 自動車リサイクル法 どっちが正しいでSHOW」(同3日、主催:経済産業省等)。「第3回 みんなで考えようクルマの税金」(同5日、主催:自動車税制改革フォーラム)。

カロツェリア展示(デザイン工房)

東京モーターショーの呼び物のひとつがイベントホールの特別展示。日本、アメリカの8社から15台出品されている。世界最高速記録に挑む8輪電気自動車やこだわりの魅力と個性的デザインなど数々のオリジナルカーに出会える。若者、女性に人気。

東ホール（乗用車・部品）



ホンダ、スズキ、スバルの日本メーカー。海外のBMW、アルピナ、ロールスロイス、フィアット、GM、オペル、サープ。部品はオーディオ・ナビゲーション。

西ホール（乗用車・部品）



日産、マツダ、光岡の日本メーカーに並列して海外のフォード、ボルボ、ジャガー、アストンマーチン、ランドローバー。隣接してシトロエン、フェラーリ、マセラティ、ポルシェ、起亜、ヒュンダイ、ルノー。部品はオーディオ、タイヤ、ホイール、用品等。

北ホール（二輪車・部品）



日本のホンダ、スズキ、ヤマハ、川崎。海外でドゥカティ、BMW、ハーレー・ダビッドソン、トライアンフ、キムコ、モト・グッツィ、マーニ、グレッター・グート。同じホールに電装・計器・照明、エンジン部品、走行関係部品・団体、車体・内装部品などを展示。

イベントホール（カロッツェリア・50周年記念展示）



今回はカロッツェリアと50周年特別記念展示場となった。カロッツェリア・ゾーンには8社から15台の個性と魅力あるオリジナルカー。50周年ゾーンには50年代から90年代までの懐かしい名車を年代毎に展示。

クリーンエネルギー車同乗試乗会

実用化近い燃料電池車や普及が本格化してきたハイブリッド車などを体感できる。自動車業界が環境問題に真剣に取り組んでいる姿勢を来場者に理解してもらうのが目的だが、ユーザーにとってもガソリン価格の高騰が続くなかで大いに関心を持つことであろう。会場は幕張メッセに隣接する海浜公園をメインに10月19日から11月6日まで開催。参加車は電気自動車、水素自動車など7社から13台。

フェスティバルパーク

西休憩ゾーンでは交通安全をテーマに家族連れなど誰もが楽しめる様々なイベントが催される。オフロードバイクによる〈トライアルデモンストレーション〉、トライアルデモの出演ライダーと若手タレントによる〈交通安全トークショー〉、モータージャーナリストやトップライダーの〈スペシャルトークショー〉、ファミリー向けの〈トラフィック戦隊アンゼンジャーショー〉、運転適性診断車が体験できる〈千葉県警コーナー〉ほか〈bayfm交通安全特番〉、〈YOSAKOI鳴子踊り〉。



少年少女モーターサイクルスポーツスクール[※]

東京モーターショーでは初めてのイベントで、中央休憩ゾーン〈北2ゲート西側〉で期間中の土・休日に実施される。

また、幼児くるま絵画展では地元・千葉市51の幼稚園から3,404の作品が北ホール2階こども広場で展示。なお、関連企画としてミニカーの「トミカコーナー」、「グランツーリスモ4・試乗体験アリーナ」、「小学生向けクリーンエネルギー車教室」、「献血、骨髄バンクコーナー」などがある。



50周年記念イベント — 10月18日(火)開催 特別プレスプレビューin日比谷公園



ホンダ「ホンダS600」



名尾良泰・自工会副会長が挨拶



説明員が記者の質問に答える



三菱「ジープ」



マツダ「コスモスポーツ」



トヨタ「トヨペットクラウンRSD型」



日産「スカイラインGT-R」。日比谷公園での特別プレスプレビューは、日本車の技術史の縮図。



ホンダ「DREAM CB750Four」



スズキ「コレダST-6A」

プレスデー前日の10月18日、「東京モーターショー50周年記念 特別展示プレスプレビュー in 日比谷公園」が、東京モーターショー発祥の地、日比谷公園の噴水広場で行われた。

プレビューに登場したのは50～70年代に生産された、日本のモータリゼーションの勃興、隆盛期を象徴するモデルで、四輪車が56年式「トヨペットクラウンRSD型」、64年式「ホンダS600」など8台、二輪車が55年式「ヤマハYA-1」など4台の計12台。「東京モーターショーの50年を振り返る特別展示」に使われる「懐かしの名車」の一部である。

台風の影響で荒れ模様の天気にもかかわらず、会場には多くの報道陣が訪れた。11時に日本自動車工業会の名尾良泰副会長・専務理事が挨拶に立ち、東京モーターショーの発展史などについて説明した後、自由取材に移った。

各車両に専門の説明員が付き、記者の質問に丁寧に回答していた。古い時代のモデルが多く、半ば忘れられていたエピソードが再確認される場面もしばしば。また、「懐かしの名車」たちの

丁寧な作りや保存状態の良さにも感嘆の声が上がっていた。

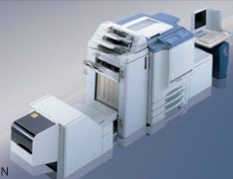
「トヨペットクラウン」の説明員を務めた沖野嘉幸さん（トヨタ博物館）は、「地元の愛知県では時折、試乗会などのイベントを行っているのですが、今回は関東地方の方々にもトヨペットクラウンを見てもらえるいい機会ということで、大変うれしく思っています。また、モーターショー会場では海外の方にもぜひ見てもらいたいですね」と、出品の意義を語った。

自動車だけでなく、懐かしの「自動車人」も登場。59年式スズキ「コレダST-6A」のライダーを務めたのは、63年のマン島TTレースで、日本人ライダーとして初めて優勝を飾った伊藤光夫氏。コレダのテストライダーも務めていた同氏は「コレダは本当にクッションのいい実用車でした。歳月が過ぎるのはあっという間ですね」と歴史を振り返った。

12時からはデモンストレーション走行に移り、二輪車、四輪車の順に実走。健在ぶりをアピールした後、展示会場である幕張メッセへと向かった。



KONICA MINOLTA



ON DEMAND PUBLISHER C-51N

The essentials of imaging

毎分51枚 高速・高画質フルカラー出力

必要な時に必要なだけ、さまざまなニーズに柔軟に対応。

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51Nで出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com



TOKYO
MOTOR SHOW
2005

10月19日の入場者数 8,500人

東京モーターショーニュースVol.1 2005年10月20日発行
発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA